

# いそファミ通信

10月号



インフルエンザワクチン接種開始が今月からはじまります。

毎年ワクチンを接種している人も、していない人も、インフルエンザワクチンの効果知っていますか？

## インフルエンザワクチンとは・・・

インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスのとげ(H 鎖)を含む不活化ワクチンです。接種することにより、体内の血液中にインフルエンザウイルスへの迎撃用ミサイル=IgG 抗体が作られます。

しかし、空気とともに体の中に入ってくるインフルエンザウイルスは、鼻や肺への通路(気管支)に直接めぐりこみ増殖するため、インフルエンザウイルスの感染そのものを抑えこむ力は弱いと考えられています。(ワクチンで誘導されるミサイル=IgG 抗体はこれらの粘膜面には存在していないため)

インフルエンザワクチンは増殖したインフルエンザウイルスが全身に広がる時に、ミサイルのようにウイルスを破壊=不活化することで発病を抑えたり、症状を軽くしたりします。

しかし、一度もインフルエンザウイルスの進入を受けていない人(乳児など)の場合は、インフルエンザに対する備えが不十分で、ワクチンの誘導するミサイルもうまく作動しません。そのため、インフルエンザウイルスの跳梁を許し、結果として発病してしまいます。これを**プライミング効果と呼び、一度もインフルエンザにかかったことのない乳児での、ワクチンの効果が弱い理由の一つと考えられています。**

一方、**過去にインフルエンザにかかったことのある人は、インフルエンザウイルスを免疫担当細胞が記憶しています。このため、ワクチンが接種されると十分に防御レベルが高まります。これをワクチンのブースター効果と呼び、このときはワクチンの効果が高まります。**

## 接種時期

インフルエンザワクチンは**接種後2週目から抗体が上昇し始め、1ヵ月でピークに達し、その効果は5ヵ月持続します。**2回接種の場合は、2回目を4週後に追加接種した場合が最も抗体の上がりが良いので、2回目の接種は4週間後に受けるのをおすすめしています。

## 接種年齢

生後0～6ヵ月まではワクチンを接種しても抗体の上がりが悪く、また母親の抗体の影響でインフルエンザにかかっても軽くすむ子が多いといわれており、ワクチン接種の対象から外れています。

生後6～12ヵ月のお子さまについては、ようやくワクチン接種量が増えた(0.25ml)ので、効果が期待できるようになりました。しかし、乳児ではプライミングの問題もあり、効果は限定的と思われるます。

乳児のインフルエンザワクチン接種を考える場合は、まず**父親、母親をはじめ、周囲の大人や年長児が積極的にワクチンを受けることが大切です。**周囲の人間がワクチンを受けて、赤ちゃんへのインフルエンザ感染の防波堤になることが、赤ちゃん自身にインフルエンザワクチンを接種することより効果的だと思います。その上で、赤ちゃんへのインフルエンザワクチン接種を検討されるとよいでしょう。

当院では10月11日(金)から予約を開始し、10月21日(月)からインフルエンザワクチンの接種を開始いたします。

FAX、インターネットでのご予約を受付けております。詳しくは案内用紙をご覧ください。



いそむらファミリークリニック